

「日本男児を鍛える」「学生から金を取らない」ベンチャー大学の試みとは？



山近 義幸氏 今元 英之氏



山近社長の著書

会社概要

会社名：(株) ザメディアジョン
所在地：広島県広島市西区横川町 2-5-15
資本金：81,500,000 円
代表者：山近 義幸 1961 年山口県出身。

広告代理店、タウン誌の会社を経て、27 歳で独立。講演活動は多岐に渡る。主な著書に、『内定の達人』シリーズ、『社運を上げる人財哲学』、『学生の品格』ほか多数

事業：①出版事業をメインとした、タウン情報誌、フリーペーパーの発刊など。②新卒採用支援をメインとした、学生の就職支援、企業の採用支援など

当会に期待すること：パートナーに対して、「日本ベンチャー大学」における講師の依頼等

URL: <http://www.mediasion.co.jp/>

プレゼンテーション内容のまとめ

2009 年 4 月 1 日からの新規事業「ベンチャー大学」について、学生紹介を交えて発表があった。同事業の特徴である「日本男児を鍛える」「学生からお金を取らない（企業がスポンサー）」などについて説明があった（同社は文部科学省から認可を受けた学校教育法上の大学ではなく、修学期間は 2 年間）。現在男子学生 25 名、半分はベンチャー企業の創設を目指している。内、3 名の学生が当日参加し、それぞれ「ベンチャー大学」への入学のいきさつや今後の目標を述べた。3 名とも一旦、大学卒業後（別府大分大学、静岡大学、上智大学）、自らを鍛え直したい思いで入学しているとのこと。静岡大学卒の学生は、「就職内定を断り、本大学に入学した。30 歳までに起業したい。入学するまでには人前に立てる人間ではなかったので鍛え直したい」と述べた。山近社長からは、今の男子の弱さに対する危機感から、習志野自衛隊での泊り込みの特訓や女子プロレスリングでの半日 1,000 回スクワットなどユニークなカリキュラムについて説明があった。

〈質疑〉（企業側も今の学生の質に対する問題意識を持っていることを認めた上で、「同大学事業は今の大学教育に対する批判が根底にあるのか」との高島氏の質問に、「大学にとって学生はお客様であり何の指導もできていないこと、特に地方の大

学では、入学試験もせずに入学できている実態について説明があり、これらについての問題意識のもと事業化に至った経緯について説明があった。今野氏からは「生徒が男性のみだが、男と女を分ける必要はないと思う」、渡邊氏は「教育はセンシティブなもので、教育内容が社長の思い込みになっていないか、教育は多くの人に影響を与えるもので、やり方を間違えると特殊な人間を作ってしまう」、濱田氏からは「education の語源は educe『引き出す』であり、上から何でも押し付けるのではなく、上手に引き出していくやり方を取るべき」といったアドバイスがあった。

また、同社を支援する大橋氏から「社長の人脈やリーダーシップ、会社の業績を増収増益で経営し続けてきた堅実さについては評価できるが、個性の強い社長のブレーキ役となる補佐役の不在や、『右傾化』『女性蔑視』と誤解され易い点が弱みである」旨、指摘頂いた。濱田氏からは、設立方法・生徒募集の方法・運営方法などのユニークさは評価できるとした上で、「よく考え抜いて、リスクに向かって行動する人間を育ててほしい、常識を教え込むだけでは無く、能力を引き出すための学び舎であったほしい」というアドバイスを頂いた。杉山氏からも「気力ある経営陣にエールを送りたい」と激励を頂いた。「ベンチャー大学」を継続・発展させていくための留意点や懸念点について、厳しい言葉も交えた指摘と激励があり、熱の籠った質疑となった。